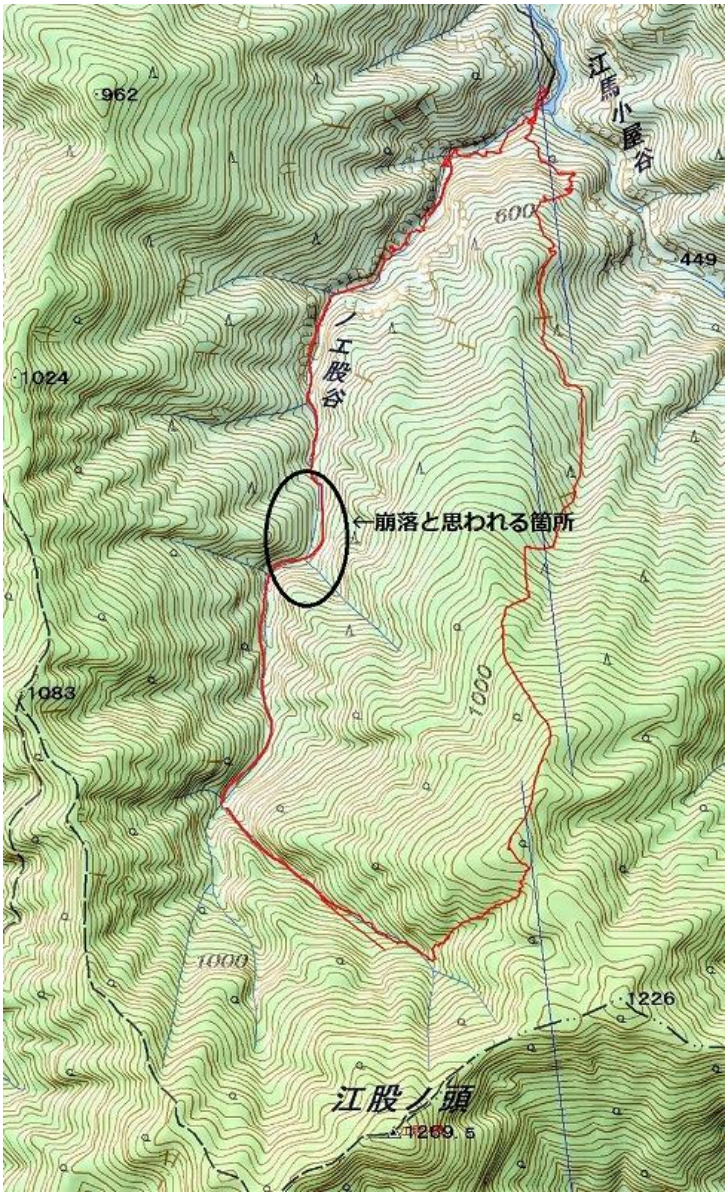
野江股谷遡行（台高）

【日程】2014 年 7 月 27 日
【エリア】台高
【形態】沢遡行
【メンバー】Ｙ、Ｏ
【報告】Ｏ



≪ルート／タイム≫

７月２６日　林道Ｐ前夜泊

７月２７日　林道Ｐ（6:00）～第一ゴルジュ巻き後の懸垂下降（8:30）～
二俣（12:00）～ナンノキ平（13:10）～林道Ｐ（15:10）

≪報告≫

７月２７日

野江股谷へは入渓地点の直前までダートではあるが車で進入できる。早朝出発に向けて、前夜の内に到着。梅雨も明け、奈良県内では最高気温 37 度近くの猛暑日であり、沢の近くにも関わらず、気温も下がらないままであった。

２７日、５時起床。６時入渓。核心部は前半にあったといって良い。ゴルジュが連なるのが野江股谷の特徴である。

不動滝へ続くゴルジュ。泳いで突破。

不動滝。飛沫でカメラレンズも霞む。

第一のゴルジュ。不動滝は泳ぎで滝の直下までたどり着くが、ここからは登る手掛かりが難しいため、手前に戻って草付きのトラバースで右岸高巻きを行う。続いて、イガミ滝も直下まで近づくことができるが、少し戻った個所から同じく右岸を斜上し、高巻きを行う。残置カムがあり。イガミ滝を超えて、懸垂下降を行う。ルートファインディングもあり、ここまで約２時間３０分

第二のゴルジュ。鶴小屋滝は左岸から巻いていく。第一のゴルジュほどは苦労せずに小規模の滝を突破。

鶴小屋滝。滝の流れが鶴の嘴のようでもある。

第三ゴルジュ。いったん伏流となったとも思える風景であったが、樹林帯を抜けると、そこに待ち受けていたものは、大崩落の現場であった。２０１１年に紀伊半島を襲った台風による被害であろう。したがって、遡行図は大きく書き換えられる必要がある。多くの美しい滝が伏流の中に埋もれ、姿を消してしまっている。

大崩落の現場。第三ゴルジュは消滅。

第四ゴルジュ上部。沢の透明度は本来の色か。

第四のゴルジュ。崩落前の状態をつかむことはできないが、かろうじて美景は生き残っている。その証拠に、これまでの水質の透明度が明らかに増しており、これが本来の第一のゴルジュから連なる蓮川の源流の透明度ではなかったかと感じた。小滝の連続。Ｙ氏にお助け紐でのヘルプを何度かお願いしたが、確保なしで大体の部分は突破できた。

二俣で大休止。昼食後は、左股を沢が枯れるまで遡行し、ナンノキ平へ詰め上がる。キャンプ跡地あり。

ナンノキ平。ひときわ特徴的な木だ。

下山はしっかりとした登山道。テープを頼りに作業道を降りていく。ただし、迷いやすい部分は最後の河原に降り立つ手前。トラロープが進入禁止を意味しているように思えるが、これを乗り越える。岩の基部を回り込むように左手へテープ付の登山道が続いている。下山途中から、雨との戦い。相当な湿気で上着も蒸れる。おまけに枯葉が多く、沢靴での下山はスリップしやすく、慎重になりがちだ。

なお、下山口と入渓地点を以前は赤い橋が架けられていたようだが、これも台風の土砂で流されてしまったようだ。遡行を終えた後は、スメールで汗を流して奈良へ。